

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にホームがあり、恒例行事になっているいちご狩り、虫見物、ぶどう狩り等に参加して頂き、季節感を味わって頂いており、自然や資源を活用した行事企画を実施しています。行事以外でも、施設に設けられている畑が散歩コースになっており、農作物の成長や収穫を楽しんでいただいたり、外にテーブルを出して、お花見やいも炊きを行う等、のどかな環境の中で、身近な自然に触れ合いながら生活していただいています。また、地域の運動会や秋祭り、幼稚園や保育園等を訪問し、地域の方々との交流も深めています。  
併設型なので特養看護師の協力も得られるため、利用者さん、ご家族の方々に健康面でも安心していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や山、少し歩けば海岸に行けるという豊かな自然環境に恵まれた事業所は、特別養護老人ホームやケアハウスなどを併設する4階建ての高齢者総合福祉施設である。事業所のある高齢者総合福祉施設は、総合的な高齢者の相談に応じてくれる施設として地域住民に認識されており、野菜等の差し入れを持ってきてくれる住民がいるなど地域との繋がりができている。事業所を利用する前からの併設施設のサービス利用者も多く、デイサービス等の職員が気にかけてくれるなど、施設全体の行事で交流するなど馴染みの利用者同士も多い。利用者の重度化に伴い全員での外出は難しくなっているが、敷地内で花見をしたりお弁当を食べたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。職員は福祉の考え方やケアのノウハウもしっかりしており、利用者との信頼関係を築きながら、安定した環境でサービスを提供している。昨年、若い熱意ある管理者に交代し、働きやすい新たな事業所づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 越智 和弘

評価完了日

平成 26 年 10 月 31 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ミーティングで職員で意見を出し、話し合っ決めて理念を職員が見やすいところに貼り、毎朝、申し送り時に唱和して理念を共有出来るように努めている。</p> <p>(外部評価) 4年前に職員全員で話し合い、「利用者の生活を大切にしながら支援したい」という思いで理念を作成しており、職員が自然に意識できるものとなっている。毎朝職員全員で理念を唱和し、共有している。理念にある「尊敬」の念をこめ利用者のケアに取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域のお祭りや行事、地域の幼稚園、小学校の運動会に参加し、出来る限り参加出来るよう心がけ、日常生活でも、なるべく地域の方と出会えるような散歩コースを歩いたりしている。畑では、近くの畑の方と気軽に話せる環境を作っている。</p> <p>(外部評価) 事業所のある高齢者総合福祉施設は、総合的な高齢者の相談に応じてくれる施設として地域住民に認識されており、野菜等の差し入れを持ってきてくれる住民がいるなど地域との繋がりができている。施設全体の納涼祭には地域住民等の参加があり、交流をしている。保育園児や幼稚園児と交流をしたり、地域等の運動会などの行事に参加したりしている。施設の行事を活用して事業所の実情等を説明し、事業所としても地域に認識されるよう取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 施設の行事に来て下さった地域の方に向け、グループホームの説明と共に認知症についての説明を行ったり、見学や相談に来られた方の相談にのったりしているが、積極的に情報発信は出来ていない。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、活動状況を報告し、意見交換やアドバイスを頂 きながらサービスの向上に努めている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、市担当 者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動 報告等を行い、参加者と意見交換をしている。会議録は玄 関前にファイリングし、家族等がいつでも閲覧できるよう 工夫している。管理者は、新たに駐在所や消防署などへ参 加を呼びかけ、話し合う内容を深めていきたいと考えてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 業務を行う上で制度上の事等の質問が出来たら、市の担当 の方に相談して関係を築くと共に伊予市のグループホーム の連絡会等に積極的に参加し、施設の事情を伝える等して いる。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、利用者の様子や事業所 の実情を具体的に伝えることにより、日頃から気軽に相談 できる関係づくりができています。空室がある場合には、地 域包括支援センターと連携することで入所に結びつくな ど、良好な関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束に関する勉強会を職員間で行い、全職員への意識 付けに努めている。現在、玄関も施錠しておらず、身体拘 束の該当者もない状態を保っている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化に伴い身体機能などが低下しているが、枕 元などに鈴を置き、迅速に対応できるよう工夫している。 外出しようとする利用者には、玄関のセンサーや見守りで 対応している。利用者が屋外に出た場合でも、敷地内が広 いため、施設の職員が気づき、さりげなく対応したりしな がら、利用者の自由な暮らしを支援している。職員は身体 拘束防止などの勉強会に参加し、理解するよう努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会の中で、議題として取り上げる事で虐待に対する認識を深め、自らのケアについて考える機会を多く持つように心がけりと共に虐待を見過ごす事のないよう、注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会において、権利擁護の制度を学ぶ機会を設け、理解を深めた。 現在は活用例はなし。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際は、利用者や家族が不安に思っている事、分からない事はないか等、理解するように努めると共に分からない事等あれば、いつでも相談して下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等が面会に来られた際には、積極的には話しかけ、意見や要望を聞き出せるよう努めている。又、運営推進会議にも参加して頂き、意見や要望を実現できるように努めている。	
			(外部評価) 職員は家族が話しやすいような雰囲気づくりを心がけており、面会時には職員から声をかけ、意見を聞くよう努めている。面会の少ない家族には、介護計画の作成時などを利用して意見や要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置しているが、意見はほとんど出されない。管理者は行事を兼ねた家族会を開催したり、匿名のアンケートを取ったりするなど意見が出しやすくなることを検討しており、出された意見を運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 年に2回、個人面接を行う機会を設け、個々の職員の見 意見を聞いている。又、そこで出た意見などは、ミーティング に出し、業務に反映するように努めている。	
			(外部評価) 以前、管理者は介護現場で他の職員と一緒に働いていたた め、職員と話しやすい関係づくりができています。職員は話 しやすく、意見や要望を気軽に伝えることができます。出さ れた意見は職員間で話し合い迅速に対応している。対応で きない場合は、前管理者の施設長や事務長に相談し、速や かに解決できる環境づくりができています。また、管理者は 年2回個別面接を行い、相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 年に2回、自己評価、人事考課を行い、状況を把握出来る ように心がけ、出来る限り職員個人個人が、働きやすい環 境で仕事出来るよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレー ニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修に出来る限り参加してもらい、知識を深める と共に法人外の研修等の参加の情報を流し、出来るように 働いている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修や地域の会議等で、積極的に交流出来るよう心がけて いる。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた め関係づくりに努めている	(自己評価) 慣れない環境での生活で不安に思う気持ちに寄り添えるよ う、多く関わりを持つように努め、他の利用者との間に入 り、少しずつ馴染んで頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス関係時は、利用者の状況を電話で報告したり、家族が面会に来られた際にも積極的に話しかけ、利用者の生活を伝えると共に家族の気持ちを聞き出せるよう話す時間を多めにとるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス利用を開始する際は、他のサービスも含めた介護サービスを提供し、本人や家族が今、何を必要としているのかをじっくり話し合うよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人差はあるが、掃除や洗濯など、各個人の出来る事や本来持っている力を引き出せるように関わりを持つよう心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 情報を共有しあえるよう、面会時にお話しをする機会を設けたり、家族からの要望を伺うなど信頼関係を築けるよう心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人が面会に来られた際には、今後も面会に来て頂けるように、訪問しやすい雰囲気作りに努めている。また、外出などで馴染みのある場所へ行くなどの支援も行っている。  (外部評価) 日々の会話の中で聞いた馴染みの場所等に行けるよう支援している。知人や親戚、近所の方が訪問してくれるよう働きかけを行い、快く対応している。元々併設施設のサービスを利用していた利用者には、協力しながら関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者間の関係を理解し、本人の希望やそれぞれの性格、行動などを考慮して座席の配置を決めたり、お互いが協力し合えるよう役割を分担するなどの支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所時には、転居先の関係者にサマリーなど必要に応じて情報提供をしているが、本人や家族へのフォローに関しては、相談があった場合にしか行っていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 思いや意向を聞き出せるように関わりを持ち、支援に活かせる情報は職員間で共有している。困難な場合も出来る限り本人の希望に添えるような対応を心がけている。  (外部評価) 日々の会話の中で、利用者から思いや意向を聞くよう努めている。思いの把握が困難な利用者には家族から情報を聞き、何をしたいかを常に考えながら利用者本位のサービス支援に繋げている。普段は思いを言わない利用者も、入浴時など職員と1対1になると話をすることもあり、リラックスしている時間に傾聴するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、家族に血縁関係や習慣、好みなどの項目に記入して頂いている。また、入所後も本人や家族との信頼関係を築くよう努め支援していく上で必要な情報の収集を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりから、心身状態や有する力を把握して、出来る事を手伝って頂いたり、新たな役割の発見に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人や家族、関係者の意見や要望を可能な限り取り入れ、職員間でカンファレンスを行い作成している。また、状態が変化したり、新たな要望があれば、その都度話し合い見直しを行っている。  (外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認しながら介護計画を立案し、職員間で話し合い作成している。介護計画の実施を職員全員が確認できるよう独自の記録様式を使用して毎月モニタリングを行い、3か月に1回利用者や家族の意見を取り入れ見直しをしている。また、状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。利用者や職員にも分かりやすい具体的な目標を設定し、職員が介護計画を共有して達成できるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践、結果は個別に記録を行い職員間で情報を共有している。また、よりよいケアを提供していくために、職員全員の意見を参考にし、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況・要望に対しては可能な限り受け入れるようにしている。また、他部署主催の行事に参加したり、急変時には他部署の看護師の方にも協力をして頂いている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の運動会に参加したり、ボランティアを招いたり、交流を持てるような機会を設け、地域の方と楽しんで頂けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人や家族の希望を確認し、なじみのあるかかり つけ医による継続的な医療を受けられるよう支援してい る。また、施設の嘱託医による週一回の往診や、往診に來 て頂ける病院も把握しており、適切な医療を受けられる体 制を整えている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の協力を 得て継続して受診することができる。協力医の往診があ り、利用者の健康管理をしている。専門医の受診内容は家 族から報告を受けてケース記録や日誌に記載し、職員間で 情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々、体調の観察を行い、状態の変化や異変の早期発見に 努めている。また、必要時には施設内の看護師やかかりつ け医と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医療機関へサマリーを作成し情報提供を行っ ている。また、入院中も関係者と連絡を取り、情報交換を 行い、状態把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に家族へ、終末期ケアは行っていない事を説明し理 解して頂いている。重度化した場合には、早い段階から家 族や医療機関と話し合いを行っている。	
			(外部評価) 事業所では看取りを実施していない。重度化や終末期に事 業所で対応できる内容を利用開始前に利用者や家族に説明 し、納得を得た上で入居してもらっている。看護師等はい ないため、医療行為ができないことで利用者や家族に混乱 が生じないよう最善の方法を繰り返し話し合い、誠実な対 応をするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成しており、医療機関や家族への連絡方法や手順は把握出来ている。応急手当や初期対応については職員間で個人差があり、定期的な訓練も行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、消防署の指導の下、昼夜想定避難策・避難訓練を実施しており、マニュアルも作成している。また、地域の方々とも災害発生に備えて協力体制や備蓄品の準備等について話し合いが出来ている。  (外部評価) 併設している高齢者福祉施設と合同で、年2回消防署の協力を得て、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。施設全体の防災マニュアルがあり、災害発生時には併設施設の職員の協力が得られる体制づくりをしている。施設は耐震性の建物のため、地区の避難場所に指定されており、地域住民にも認知されている。災害時は地域住民の支援を求めるだけでなく、施設の備蓄や浴室等の設備を開放するなど、相互の協力体制が築かれている。	災害発生時に万全の対策が取れるよう、職員一人ひとりが施設全体のマニュアルを把握し、迅速に対応できる体制づくりを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) マニュアルを作成しており、全職員が利用者の尊厳やプライバシー保護の重要性を理解している。また、ミーティング時の勉強会においても、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学び、ケアの質の向上に取り組んでいる。  (外部評価) 理念に沿った言葉かけやケアが実践できるよう、申し送りやカンファレンス等で、職員同士で確認しながら統一したサービスを提供できるよう努めている。利用者一人ひとりの人格や状況に配慮しながら対応している。毎朝10時に利用者の身だしなみを確認することは、不安感や不信感を抱かないことにも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 要望や自己決定が可能な利用者には、出来る限り実現できるよう支援している。思いや希望の把握、自己決定が困難な方については、働きかけは行っているが十分ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりが望んでいるペースに合わせた暮らしの支援をしており、居室で過ごして頂いたり、フロアにてレクリエーションを楽しんで頂いたり、お手伝いをして頂いたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温や季節に合わせて衣類を準備している。衣類の選択が難しい利用者に関しては、職員が衣類を選んでいることが多く、課題が残っている。散髪は訪問理容・美容によって定期的に行われている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物や行事食を考慮し、栄養士の指導の下、献立を立てている。食事一連の作業やあと片付けを利用者にして頂いている。また一緒に食事を味わいながら、利用者にとって食事が楽しいものになるように支援している。 (外部評価) 法人の栄養士に意見を聞き、旬の食材や利用者の好みを取り入れながら、職員が献立を作成し調理している。利用者と一緒に食材を買いに行ったり、食事の準備や後片付けをしたりするなど、手伝いすることが利用者の自信や喜びに繋がっている。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、会話を楽しみながら同じものを食べている。また、年1回外食を取り入れ、利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は各利用者に合わせた形態で提供しており、バランス良く摂取できるよう支援している。また水分量が少ない方にはこまめに水分摂取して頂いたり、チェック表で水分量を確認している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 必ず毎食後に声掛け、付き添いにて利用者の状態に応じたケアを行っている。また義歯は夜間に、入れ歯洗浄剤にて殺菌・消毒をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握して、声掛けにてトイレ誘導を行っている。希望時には極力すぐに対応し、排泄の失敗を減らすように努めている。また介助が必要な利用者には常に付き添い、転倒等のリスク面にも配慮しながら、排泄の自立に向けて支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄チェックをしてパターンを把握し、利用者に合わせて声かけをしてトイレ誘導をしている。重度化に伴いオムツを使用している利用者もいるが、職員間で排泄方法の見直しなど最善の方法を検討している。自立歩行でトイレに行く利用者の見守りを行うなど、自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況や間隔に留意しており、出来るだけ水分補給等で自然排便できるよう支援しているが、下剤に頼っている事が多い。下剤使用時には、個々の排便状況に応じて適切な量・使用頻度の模索に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の体調や希望を配慮しながら、入浴の間隔が開いている方から優先的に声掛けを行い入浴して頂いている。拒否された場合等は無理強いせず、時間や日をずらし本人のタイミングをみて声掛けする等、出来る限り、本人の希望に沿って気持ち良く入浴してもらえよう支援している。	
			(外部評価) 利用者は1日置きに入浴することができる。入浴剤を入れたり音楽をかけたりする工夫をするなど、快適に入浴ができるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、タイミングや声かけに工夫している。重度化している利用者にも湯船に浸かれるよう支援しているが、難しい場合には足湯をしながら胸元にはタオルを掛けてシャワー浴をする工夫をしている。職員と1対1で会話を楽しみながら入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜間の睡眠を促す為、日中に日光を浴びて頂くよう散歩したり、なるべく起きて活動出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者全員の内服薬一覧表を作成しており、職員全員に分かりやすく把握出来るようにしているが、薬の目的・副作用に対し、職員間で情報交換する機会などはもっと必要である。誤薬、飲み忘れは、二人以上の職員で内服の際にチェックし防止している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の生活歴や嗜好等を考え、利用者の負担にならない程度に日常生活の手伝いをして頂いたり、畑仕事や行事の挨拶等をして頂いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事等での外出はあるが、一人一人の希望に沿い、外出する事はなかなか実現出来ていない。帰宅願望の強い利用者に対しては、出来る限り散歩に付き添っている。	
			(外部評価) 重度化に伴い、利用者全員での外出は難しくなってきたが、敷地内で花見をしたりお弁当を食べたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。利用者の要望に応じて、事業所周辺を散歩したり、法人の福祉車両を使用しドライブに出かけられるよう支援している。個別の外出支援は家族にお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理は、職員が行っている為、利用者がお金を所持出来るところまでの支援は出来ていない。行事で外出したり、買い物の際は、利用者がお金を自分で使えるように支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば、職員が仲介を行い、電話をしたりしている。手紙は、年賀状作りを職員の支援で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 混乱が起きないように、フロアの席を決め、ソファ・ベンチ等を多く置くことで職員も一緒に座る等して居心地良く過ごせるよう努め、壁には、季節を感じられる提示を心がけている。</p> <p>(外部評価) オープンキッチンからリビング兼食堂となっている広めの共用空間を見渡すことができる。リビングから吹き抜けの中庭に続くテラスがあり、気候の良い時期にはお茶を楽しみながら過ごすこともある。また、利用者と一緒に制作したちぎり絵なども飾られており、利用者自身の家だという安心感に繋がっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファやベンチを一人でも過ごせる空間が作れるような配置に置き、食事のテーブルは利用者同士の関係を考慮し、席を時に替えたりしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、家で使っていた家具等、馴染みのある物を持ってきて頂くようお願いし、また利用者の希望があれば、家族にその旨を伝え、購入して頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 大きめの窓からは、桜や紅葉など四季折々の風景を居室にしながら堪能することができる。広めの居室にはベッドや押し入れが備え付けられ、利用者の使い慣れた家具や仏壇などの思い出のものを持ち込み、利用者に合わせて過ごしやすい空間づくりをしている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの回数が多い利用者をトイレの近い居室にしたり、歩行能力を配慮し、居室の配置を食事の席から遠い近いを決めている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海にも山にも近い豊かな自然の中にホームがあり、季節の移り変わりを感じながら過ごして頂いています。施設内には畑があり、農作物の収穫を利用者の方と共に楽しみながら行っています。また、地域の方に出来た野菜を頂いたりして、色々ご協力して頂いています。じゃがいものやさつまいもの収穫は、恒例の行事となっており、その日は職員、利用者の方総出で収穫を行い、収穫後じゃがいもやさつまいもを蒸かしてもしたり、煮物にしたりして召し上がって頂いています。これ以外にもいちご狩りや蛍見物やドライブやぶどう狩りや砥部動物園見学など近隣の自然、地域資源を利用して行事を行っております。また、利用者の方の転倒時や特変があった場合は、特養やデイサービスといった他の部署の看護師に診て頂き、高齢者総合福祉施設の特性を活かした看護体制を取っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田畑や山、少し歩けば海岸に行けるという豊かな自然環境に恵まれた事業所は、特別養護老人ホームやケアハウスなどを併設する4階建ての高齢者総合福祉施設である。事業所のある高齢者総合福祉施設は、総合的な高齢者の相談に応じてくれる施設として地域住民に認識されており、野菜等の差し入れを持ってきてくれる住民がいるなど地域との繋がりができている。事業所を利用する前からの併設施設のサービス利用者も多く、デイサービス等の職員が気にかけてくれるなど、施設全体の行事で交流するなど馴染みの利用者同士も多い。利用者の重度化に伴い全員での外出は難しくなっているが、敷地内で花見をしたりお弁当を食べたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。職員は福祉の考え方やケアのノウハウもしっかりしており、利用者との信頼関係を築きながら、安定した環境でサービスを提供している。昨年、若い熱意ある管理者に交代し、働きやすい新たな事業所づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)  
氏名 越智 和弘

評価完了日 平成 26 年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設、グループホームそれぞれに理念があり、毎朝出勤職員が唱和し、実践できているか自己確認の時間をとっている。又、職員1人1人に理念に添った個人目標を立ててもらい、半年に一度評価することで実践に結びつけている。	
			(外部評価) 4年前に職員全員で話し合い、「利用者の生活を大切にしながら支援したい」という思いで理念を作成しており、職員が自然に意識できるものとなっている。毎朝職員全員で理念を唱和し、共有している。理念にある「尊敬」の念をこめ利用者のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 保育園や幼稚園との交流、地域の夏祭りや運動会への参加、又、地域の方々に施設行事の納涼祭や秋祭りに来て頂いている。地域の方に野菜を頂く事もあったり、野菜作りを教えるときもある。ボランティアの方々や子供達が来て下さり、様々な芸を披露して下さっている。年末には、地域の小学生たちと餅つきをし、食事会を楽しめる。	
			(外部評価) 事業所のある高齢者総合福祉施設は、総合的な高齢者の相談に応じてくれる施設として地域住民に認識されており、野菜等の差し入れを持ってきてくれる住民がいるなど地域との繋がりができている。施設全体の納涼祭には地域住民等の参加があり、交流をしている。保育園児や幼稚園児と交流をしたり、地域等の運動会などの行事に参加したりしている。施設の行事を活用して事業所の実情等を説明し、事業所としても地域に認識されるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 御家族や、見学に来られた方より相談があれば応じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況や評価への取組みなどを報告させていただ いている。地域の方から意見を頂く事も多く、サービ スの参考にさせて頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、区長、民生委員、市担 当者等の参加を得て開催している。会議では、事業所の活動 報告等を行い、参加者と意見交換をしている。会議録は玄 関前にファイリングし、家族等がいつでも閲覧できるよう 工夫している。管理者は、新たに駐在所や消防署などへ参 加を呼びかけ、話し合う内容を深めていきたいと考えてい る。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に出席して頂き、実績や取組みを報告し意 見を伺うようにしている。また、分からない事や困った事 があれば、その都度市の担当者に聞いている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、利用者の様子や事業所 の実情を具体的に伝えることにより、日頃から気軽に相談 できる関係づくりができています。空室がある場合には、地 域包括支援センターと連携することで入所に結びつくな ど、良好な関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内で勉強会を行う等し、職員の身体拘束防止に対す る知識を深め、身体拘束をしないケアを行うようにしてい る。玄関の施錠はしておらず、外出したい利用者には付き 添い散歩等して気分転換していただいている。	
			(外部評価) 利用者の高齢化に伴い身体機能などが低下しているが、枕 元などに鈴を置き、迅速に対応できるよう工夫している。 外出しようとする利用者には、玄関のセンサーや見守りで 対応している。利用者が屋外に出た場合でも、敷地内が広 いため、施設の職員が気づき、さりげなく対応したりしな がら、利用者の自由な暮らしを支援している。職員は身体 拘束防止などの勉強会に参加し、理解するよう努めてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内で勉強会を行うなどすると共に、ミーティングなどの機会にも話し合いをしている。日々 利用者の身体、表情などを観察し、職員同士で意見交換やアドバイスをしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で学ぶ機会は作っているが、該当者がおらず活用はされていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約などの際には、書面に添って説明した後 不安や疑問が無いかお伺いし、理解していただけるような説明をしている。また、いつでも相談に乗りますと声をかけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の要望は日々の会話などから把握するようにしている。御家族にはケアプラン説明時や面会時に要望などをお聞きするようにしている。要望があれば職員間で共有・話し合いを行い、運営に反映するよう努めている。苦情については、相談窓口を家族に説明している。	
			(外部評価) 職員は家族が話しやすいような雰囲気づくりを心がけており、面会時には職員から声をかけ、意見を聞くよう努めている。面会の少ない家族には、介護計画の作成時などを利用して意見や要望を聞くようにしている。玄関に意見箱を設置しているが、意見はほとんど出されない。管理者は行事を兼ねた家族会を開催したり、匿名のアンケートを取ったりするなど意見が出しやすくなることを検討しており、出された意見を運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の業務の中で意見を聞くほか、ミーティングの際や年2回に個人面接の際にも意見や要望を聞くようにしている。必要に応じて話し合いを行い、運営に反映・生かすようにしている。	
			(外部評価) 以前、管理者は介護現場で他の職員と一緒に働いていたため、職員と話しやすい関係づくりができています。職員は話しやすく、意見や要望を気軽に伝えることができます。出された意見は職員間で話し合い迅速に対応している。対応できない場合は、前管理者の施設長や事務長に相談し、速やかに解決できる環境づくりができています。また、管理者は年2回個別面接を行い、相談にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価と人事考課表や職員からの報告で把握するように努めている。管理者以外にユニットリーダーを設け、相談しやすい環境を作っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修については、情報提供し参加を促している。事業所内で、毎月勉強会を行い、知識・技術の向上が図れるように努めている。また、業務の中で疑問や技術面の不安があれば、相談に乗り解決出来る様話し合い、実技指導している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じ交流する機会を作っている。相互訪問は出来ていない。	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に御本人にお会いしたり、家族にお話しを聞いたりすることで、本人の理解に努めている。また入所後は、本人の思いや環境の変化による混乱などの把握に努め、安心して生活出来る環境作りをすると共に、職員や他利用者と馴染みの関係が築けるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に家族・本人の要望や困っていること、不安に思っていることなどを聞かせて頂いている。それを踏まえた上で介護計画を作成し、具体的なサービス内容の説明を行ったり、話し合いをすることで信頼関係が築けるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学や入所相談の際、本人の状態を確認し、必要に応じて他のサービスや支援について説明させて頂いたり、他の事業所に相談するようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除や家事などを一緒に手伝って頂いたり、外出行事・季節行事を企画し一緒に外出したりすることで、より良い関係を築き、少しでも安心できる生活が送れるように努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時や電話連絡を行う際、本人の状態を報告したり本人について教えることで、情報の共有を行いつつ、家族との信頼関係が築けるように努めている。本人の希望があれば電話で会話して頂いたり、必要時に病院受診の付き添いをして頂いたりして、職員・家族が協力して本人を支えるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 友人や知人が面会に来られた際は、居室へ案内したりお茶や椅子を用意することで、ゆっくり話をして頂けるようにしている。馴染みの場所への外出を本人が希望される場合、基本的には家族の協力が得られれば支援を行っている。  (外部評価) 日々の会話の中で聞いた馴染みの場所等に行けるよう支援している。知人や親戚、近所の方が訪問してくれるよう働きかけを行い、快く対応している。元々併設施設のサービスを利用していた利用者には、協力しながら関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 本人の状態や利用者同士の仲の良さ、性格、行動などを考慮しフロアの座席を配置しているが、希望があれば席替えなども行い、できるだけ利用者同士が関わり合えるようにしている。お手伝い等して頂く際は、協力しながら出来るように配慮し、レクリエーションや行事を通して利用者同士の交流が深められるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了後であっても、家族から相談があれば話を伺い、その内容に沿って助言などの支援は行っている。転居や入院の場合は、必要に応じて転居先・入院先に情報提供を行っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの思いや希望は把握するように努めている。必要な情報は記録にまとめたり、ケアカンファレンスで話し合うことで職員間で共有し、今後の支援に活かせるようにしている。把握が困難な場合、家族に話を伺ったり、これまでの情報を参考にして、出来るだけ本人本位のケアが行えるように心掛けている。 (外部評価) 日々の会話の中で、利用者から思いや意向を聞くよう努めている。思いの把握が困難な利用者には家族から情報を聞き、何をしたいかを常に考えながら利用者本位のサービス支援に繋げている。普段は思いを言わない利用者も、入浴時など職員と1対1になると話をすることもあり、リラックスしている時間に傾聴するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所の際、家族に基本的な情報や血縁関係、年代別のエピソード、習慣、好みなどを分かる範囲で項目別に記入して頂くことで、生活歴を把握している。また、これまでのサービス利用の経過に関しては、家族に伺ったり、他事業所から情報を提供して頂いている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々、状態の観察を行うことで現状を把握し、すぐに変化に気付けるように心掛けている。普段の暮らしの中のお手伝いやレクリエーションなどを通して本人の有する力が発見出来るように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 入所時、家族に本人がどのように過ごして頂きたいかお聞きしている。3ヶ月ごとにケアカンファレンスを開き職員間で意見交換を行っている。それに家族も参加して頂くようにお知らせはしているが、実際に参加される家族は少ない。本人・家族の要望があれば話を伺い、それを介護計画に反映させて作成するようにしている。</p> <p>(外部評価) 計画作成担当者が利用者や家族の意向を確認しながら介護計画を立案し、職員間で話し合い作成している。介護計画の実施を職員全員が確認できるよう独自の記録様式を使用して毎月モニタリングを行い、3か月に1回利用者や家族の意見を取り入れ見直しをしている。また、状態の変化に応じて、その都度見直しをしている。利用者や職員にも分かりやすい具体的な目標を設定し、職員が介護計画を共有して達成できるよう取り組んでいる。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 利用者の状態や様子、ケアの実践・結果は個別記録に記入し、職員間で情報を共有している。ケアカンファレンスで職員や家族・本人の意見も参考にしながら、ケア内容や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、ニーズに応じて可能な限り支援を行っている。必要があれば既存のサービス外の支援も行っているが、意識的にサービスの多機能化に取り組むというまでは至っていない。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の運動会や祭りに参加したり、幼稚園や保育所に訪問させて頂くなど、地域との交流の機会は作っている。また、民生委員やボランティアの方々の協力を得て、銭太鼓や復話術など披露して下さる機会もあり、利用者の方々に楽しんで頂いている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人や家族の希望を確認し、馴染みの医師による 継続的な医療が受けられるように支援しており、家族の要 望や本人の状態に応じて、家族の同意を得た上で嘱託医や 地域の医療機関に往診を依頼している。必要があれば家族 に連絡し、各診療科目の受診の支援を行うことで、適切な 医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を、家族の協力を 得て継続して受診することができる。協力医の往診があ り、利用者の健康管理をしている。専門医の受診内容は家 族から報告を受けてケース記録や日誌に記載し、職員間で 情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々、体調の観察を行い、状態の変化や異変の早期発見に 努めている。また、必要時には施設内の看護師や、かかり つけ医と連携を図り、適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、医療機関へサマリーを作成し情報提供を行っ ている。また、入院中も関係者と連絡を取り、情報交換を 行い、状態把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に家族へ、終末期ケアは行っていない事を説明し理 解して頂いている。重度化した場合には、早い段階から家 族や医療機関と話し合いを行っている。	
			(外部評価) 事業所では看取りを実施していない。重度化や終末期に事 業所で対応できる内容を利用開始前に利用者や家族に説明 し、納得を得た上で入居してもらっている。看護師等はい ないため、医療行為ができないことで利用者や家族に混乱 が生じないよう最善の方法を繰り返し話し合い、誠実な対 応をするよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成しており、医療機関や家族への連絡方法や手順は把握出来ている。応急手当や初期対応については職員間で個人差があり、定期的な訓練も行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成しており、年2回、消防署の指導を受け、昼夜想定避難訓練を利用者と一緒に実施している。訓練実施後の反省点や今後の課題については職員間で話し合っている。施設は地域の避難所となっており、地域自主防災組織の協力体制もあり、地域を含めた大規模な災害訓練も予定している。 (外部評価) 併設している高齢者福祉施設と合同で、年2回消防署の協力を得て、昼間や夜間を想定した避難訓練を実施している。施設全体の防災マニュアルがあり、災害発生時には併設施設の職員の協力が得られる体制づくりをしている。施設は耐震性の建物のため、地区の避難場所に指定されており、地域住民にも認知されている。災害時は地域住民の支援を求めるだけでなく、施設の備蓄や浴室等の設備を開放するなど、相互の協力体制が築かれている。	災害発生時に万全の対策が取れるよう、職員一人ひとりが施設全体のマニュアルを把握し、迅速に対応できる体制づくりを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) マニュアルに基づき、全職員が利用者の尊厳やプライバシー確保の重要性を理解している。また、ミーティングの際に行っている勉強会においても、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学んでいる。 (外部評価) 理念に沿った言葉かけやケアが実践できるよう、申し送りやカンファレンス等で、職員同士で確認しながら統一したサービスを提供できるよう努めている。利用者一人ひとりの人格や状況に配慮しながら対応している。毎朝10時に利用者の身だしなみを確認することは、不安感や不信感を抱かないことにも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 食材の買い物の際に利用者に同伴してもらい、おやつ等を選んでいただいたり、希望している趣味や散歩等の実施のお手伝いが出来ている。思いや希望の自己表現が困難な方への取り組みは行っているが、まだ十分とは言えない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の体調やその日の気分に合わせて、その人らしい暮らしをお手伝いしている。レクレーションや余暇についても自由参加であり、利用者が選択されている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温、気候、季節に合わせて衣類を準備している。理容・美容は訪問サービスを利用されている。介助が必要な利用者の更衣に関しては、好みの色や生活歴に合わせ、職員が選ばせていただいている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者から希望や意向を伺っているが、具体的な返答が少なく、季節の旬のもの等を考慮し職員が献立を立てている。調理に関しても、味付けのアドバイスをいただいたり、味見をしてもらい、意向を反映している。また食材の皮むき、筋取り、後片付け等もお手伝いして下さっている。 (外部評価) 法人の栄養士に意見を聞き、旬の食材や利用者の好みを取り入れながら、職員が献立を作成し調理している。利用者と一緒に食材を買いに行ったり、食事の準備や後片付けをしたりするなど、手伝いすることが利用者の自信や喜びに繋がっている。職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、会話を楽しみながら同じものを食べている。また、年1回外食を取り入れ、利用者には喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の食べやすいように、食材を調理したり、食器を工夫したり、ワンプレートにしたりしている。また、気分的な食欲低下でも励ましなど精神的な支援も行っている。水分等に関しても、様々な飲料を提供し、嚥下状態によってはトロミ剤等も使用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、必ず口腔ケアを実施出来るよう支援している。口腔や自歯、義歯の状態により、歯ブラシ、洗浄液、歯磨きテッシュ、義歯洗浄剤などを適切に使用し、口腔清潔に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 介助が必要な利用者には、常に付き添ったり、声掛けにて、安全や清潔への心配りを行っている。個別に排泄のパターンを把握できるように努め、トイレ誘導等を実施して、排泄の失敗や不快感を軽減出来るようにしている。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄チェックをしてパターンを把握し、利用者に合わせて声かけをしてトイレ誘導をしている。重度化に伴いオムツを使用している利用者もいるが、職員間で排泄方法の見直しなど最善の方法を検討している。自立歩行でトイレに行く利用者の見守りを行うなど、自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便が出来るよう、献立を考えたり水分をしっかり摂って頂くように工夫している。下剤使用に関しては、個々の排便状況に応じて、適切な量、使用頻度に気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の間隔が開いている利用者から優先に入浴して頂いている。拒否された場合は、無理に入浴せず日をずらし、再度声掛けを行っている。入浴を楽しめるよう、いくつかの入浴剤を用意している。	
			(外部評価) 利用者は1日置きに入浴することができる。入浴剤を入れたり音楽をかけたりする工夫をするなど、快適に入浴ができるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、タイミングや声かけに工夫している。重度化している利用者にも湯船に浸かれるよう支援しているが、難しい場合には足湯をしながら胸元にはタオルを掛けてシャワー浴をする工夫をしている。職員と1対1で会話を楽しみながら入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は出来るだけ起きていて頂けるよう心掛け手いる。無理はさせず、眠気のある利用者にはベッド臥床を勧めるが、昼夜逆転にならないよう臥床時間に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 目的や副作用について確認しやすいよう全員分ファイルにまとめている。薬は処方箋を元に2人以上の職員で確認し、作成している。服薬前には職員同士で名前、日付を復唱し確認し誤薬がないよう取り組んでいる。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の盛り付けや食器拭き、洗濯物たたみ等の活動が行えるよう声掛けをしている。施設内には畑がある為、様子を観に行ったり収穫もしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日には施設内を散歩し気分転換して頂いている。行事では季節に応じて楽しんで頂けるようお出かけをしたり、地域の行事にも参加している。	
			(外部評価) 重度化に伴い、利用者全員での外出は難しくなってきたが、敷地内で花見をしたりお弁当を食べたりするなど、気分転換が図れるよう支援している。利用者の要望に応じて、事業所周辺を散歩したり、法人の福祉車両を使用しドライブに出かけられるよう支援している。個別の外出支援は家族にお願いしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は職員が行っている。買い物に同行して頂いた際に、おやつを購入して頂いたり、施設に回ってくるパン屋さんのパンを購入して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望がある利用者には職員が仲介に入り電話をして頂いている。手紙は、年賀状作りを職員の支援で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間は、季節に応じて季節に合った飾り付けをしたり、行事等でお出かけした際の写真を掲示している。いつも清潔な状態を保てるようこまめに清掃を行っている。  (外部評価) オープンキッチンからリビング兼食堂となっている広めの共用空間を見渡すことができる。リビングから吹き抜けの中庭に続くテラスがあり、気候の良い時期にはお茶を楽しみながら過ごすこともある。また、利用者と一緒に制作したちぎり絵なども飾られており、利用者自身の家だという安心感に繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者間の関係を考慮し、席やテーブルの配置を行っている。会話が弾まない場合は、職員が間に入り話題作りに取り組んでいる。ソファはいくつか用意し自席以外でも休めるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使い慣れた家具等を自由に持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。安全に過ごして頂く為、本人、家族と相談した上で配置している。  (外部評価) 大きめの窓からは、桜や紅葉など四季折々の風景を居室にしながら堪能することができる。広めの居室にはベッドや押し入れが備え付けられ、利用者の使い慣れた家具や仏壇などの思い出のものを持ち込み、利用者に合わせて過ごしやすい空間づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) すぐに介助をせずに、出来ることは御自分でして頂き、事故なく安全に生活が送れるよう、見守りや必要に応じて介助を行っている。	